設計段階における三者協議結果資料　　一級河川 大野川　大野川水管橋

様式２

位置図



橋梁名　　大野川水管橋
架設年度　昭和 44 年(57 年経過)
橋長　　L=408.0m
内空断面　φ1300mm
上部工形式　鉄管(ﾗﾝｶﾞｰ橋及びﾊﾟｲﾌﾟﾋﾞｰﾑ橋)
下部工形式　RC 橋脚
交差条件　一級河川 大野川(国交省管理)

現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

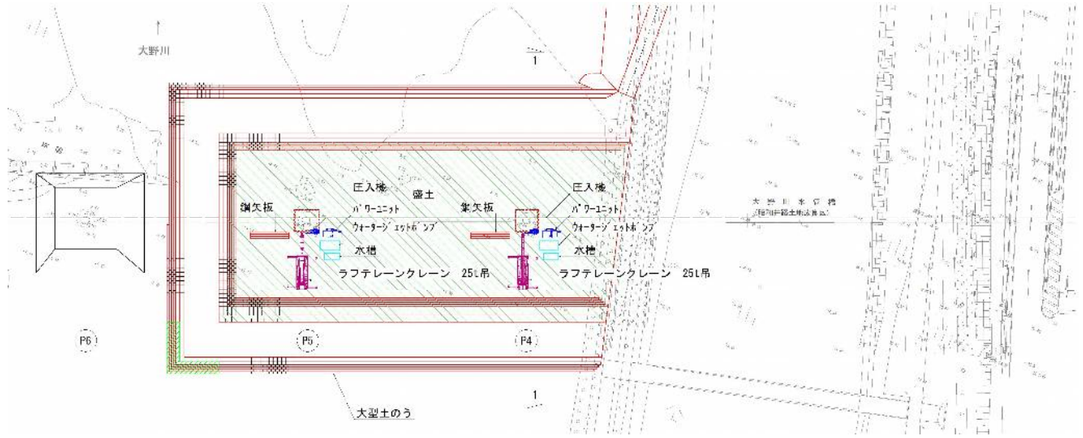
- □ 河川内橋脚(P4、P5、P6、P7)については、半川締切による施工ヤード(大型土のう:最大 5 段)により工事を行う。
- □ 河川内の半川締切設置は、4 班(2 班×昼間・夜間)による作業を行う。
- □ 左岸側橋脚(P6、P7)施工時は、周辺に民家が近接しているため、資機材等の運搬は昼間に完了させておく必要がある。

設計条件

- □ 河川内工事においては、非出水期(10/21～翌年 6/9)施工とする。
  ※右岸側河川内橋脚(P4、P5)施工時は、高水敷にて大野川合戦祭りが 11 月の第 2 土曜日(準備:7 日間、後片付け:2 日間)に開催されるため、10 日間施工不可。
- □ 河川内工事は 2 期施工(右岸(P4、P5)、左岸(P6、P7))に分けた施工とする。
- □ 河川内施工ヤード:大型土のう+土砂による河川内盛土

平面図

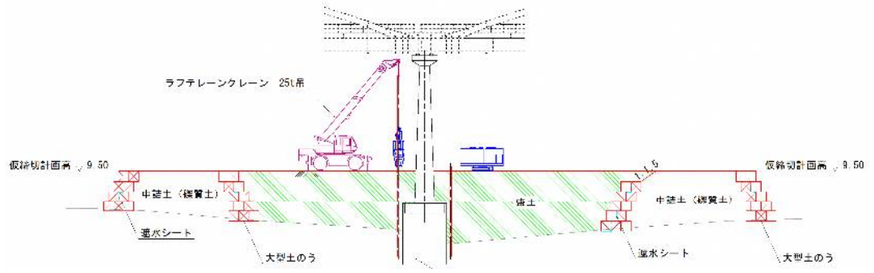
右岸側河川内橋脚(P4、P5)施工時



※左岸側河川内橋脚(P6、P7)施工時も同様に資機材配置を行う。

標準断面図

1-1 断面(仮設土留工設置時)



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

■コンクリートプラントを利用する際の料金が割高となることや、近隣の民家へ騒音・振動等の影響が考えられることから、夜間での施工は困難である。
→昼間のみでの施工とすることが望ましい。

■河川内橋脚について、1 年で 2 橋脚の施工は工程的に困難であることが想定される。
→1 年につき 1 橋脚の施工とする等、余裕を持った施工工程へ見直しを行う。

■中詰土や盛土部に大量の土砂を使用するため、手配・仮置き・搬入等に工程を要することが想定される。
→中詰土を大型土のうに変更し、盛土部分の計画高を下げる等、使用する土砂の数量を減らす方針とする。

■耐震補強工事にのみ盛土部への仮設鋼矢板設置による締切を計画している。護床ブロック設置時は仮設鋼矢板を撤去し、必要に応じてポンプによる排水を想定しているが、護床ブロック設置範囲までをカバーする仮設鋼矢板の設置計画とすることが望ましい。
→護床ブロック設置時においても仮設鋼矢板による締切を行う等、設置計画の見直しを行う。

○確認事項

■大型土のうによる仮締切及び施工ヤードの確保は可能か。 → 施工自体は可能である。